社会福祉法人　同愛会

10周年企画　てらん広場及び関連施設実践報告会

障害がある前に人間であることに連帯できるのか
～知的障害者との関係性をめぐって～

御　案　内

社会福祉法人同愛会では、昭和53年の法人設立以来、通所授産施設幸陽園・空とぶくじら社などの施設の中で障害者に対する福祉実践を積み重ねてきましたが、平成4年入所更生施設てらん広場および福祉工場ダイア磯子の設立を機に、てらん広場を中心として、横浜市の福祉施策を様々に活用しながら、障害者の「じりつ」した人生を支援するための福祉実践を積み重ねてきました。

てらん広場・上菅田地域ケアプラザ・ダイア磯子が10周年を迎えると同時に、障害者福祉の施策が大きく変わろうとしている今、我々が積み重ねてきた実践を整理して報告すると共に、障害者福祉に関わる多くの方々と、共有できる部分は共有し、批判を受ける部分は真摯に受け止め、また、それを今後の実践につなげ、障害を持った方々への質の高いサービスの提供を行っていきたいと考え、表記の企画を実施することと致しました。

多くの方々に参加していただき、障害者に対するサービス機関の実践について考える時間を共有したいと思います。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

主催：社会福祉法人　同愛会

てらん広場・幸陽園・ダイア磯子・上菅田地域ケアプラザ
西部就労援助センター・地域生活支援センター・西部地域ケアグループ
都筑地域活動ホームくさぶえ・グループホーム・地域作業所

実践報告会　企画委員会　委員長　高山和彦
実行委員会　委員長　作道　栄

連絡先：
〒240-0051　横浜市保土ヶ谷区上菅田町1696　てらん広場内
TEL　045-373-9667　　FAX　045-373-9668
e-mail　info@douaikai.com　　URL　http://www.douaikai.com/

開催日　平成15年1月19日(日)　　**会場**　パシフィコ横浜

日程　9:00　受付開始
9:30～12:30　第1部　全体会
13:30～17:00　第2部　分科会

参加費　1,000円（資料代含む)

内容

午前の部　全体会

(1)　基調報告
「総体としてのてらん広場は何を創り出そうとしてきたのか」

(2)　シンポジウム
「障害福祉の現代的課題～障害者施設への期待～」

午後の部

(1)　第1分科会
「重度知的障害者が街で暮らすための環境設定について」
（グループホームを中心に・・)

(2)　第2分科会
「行動障害に対する捉え方と対応について」

(3)　第3分科会
「知的障害を持つ人とアディクション」

(4)　ダイア磯子10周年特別企画
「触法行為を犯した知的障害者の支援と権利擁護について」
～事例報告とシンポジウム～

申し込み方法　別紙申込書を用いて、FAX、郵送、電話にて

申し込み・問い合わせ先
実践報告会　実行委員会　(担当　中田）
〒240-0051　横浜市保土ヶ谷区上菅田町1696　てらん広場内
TEL　045-373-9667　　FAX　045-373-9668
e-mail　info@douaikai.com

その他　当日の昼食の準備はございません。御了承ください。

午前の部：全体会

(1) 基調報告
「総体としてのてらん広場は何を創り出そうとしてきたのか」

報告者　高山　和彦　（社会福祉法人同愛会　理事長）

私たちは何故この仕事に就いたのか。それは、どのような心の動きから始まり、どこに向かって歩いていこうとしているのだろうか。過日「知恵遅れ」と呼ばれていた人たちが変わってきた、と言われるようになって久しい。彼らの何が変わり、何が変わらないのか。そして私たちのまなざしの何が変わったのだろうか。障害の分類と症状への新たな命名によって何か判ったつもりでいるのではないのだろうか。彼らの立場、人間であることへの静かな添い方、佇まい、時には激しいやりとりとしての10年を振り返り、未来を展望したいと思っています。

(2) シンポジウム
「障害福祉の現代的課題～障害者施設への期待～」

シンポジスト(敬称略)
- ○　奥野　宏ニ　（あさけ学園施設長)
- ○　小林　繁市　（伊達市地域生活支援センター）
- ○　野崎　秀次　（十愛病院　院長）
- ○　松友　了　（全日本手をつなぐ育成会　常務理事)
- ○　高山　和彦　（社会福祉法人同愛会　理事長）

司会　石渡　和実　（東洋英和女学院大学　教授)

入所施設の存在への疑義が提起され不要論が闊歩している。グループホームがそれに替わるモノとして推奨される。が、いずれにしても近代社会が彼らを「隔離」してきた社会の構造を震撼とさせる本質的な議論がなされることが少ない。「障害」への理解を「おくれる」ことへの意味を問うことのない形態論が先行している。彼らの存在に対して私たちはどのような立ち方をしたらよいのか。シンポジストの皆さんに自由に語っていただき、「論争」をする座を提供できたらと思います。

午後の部
第1分科会　「重度知的障害者が街で暮らすための環境設定について(グループホームを中心に・・)」

報告者　本橋　輝史　（同愛会　西部地域ケアグループ代表）
ほか　グループホームスタッフ多数
コメンテーター　石渡　和実　(東洋英和女学院大学　教授)

長い間保護的施策が中心であった知的障害者福祉も、ようやく個々人の人生の質に重心が置かれるようになった。グループホームはその流れの中で新たな機軸となりつつあるが、とりわけ重度知的障害者が生活の場とするには現状は非常に厳しく、重度障害者はこの流れから取り残される可能性すらある。

今回、第1分科会においては、とりわけ重度知的障害者個々人が生き生きと街で暮らすための環境設定とは何かを検証し、数年前より開始された当法人における実践をより確かな物とするとともに、今後の具体的展開に対し、なんらかのヒントを提供する場にしたいと考える。

第2分科会　「行動障害に対する捉え方と対応について」

報告者　林　茂雄　　（同愛会　てらん広場　施設長）
　　和田　信也・高原　浩　　（同愛会　てらん広場)
コメンテーター　関水　実　(社会福祉法人やまびこの里　理事)

強度行動障害といわれる人たちとどのように関わっていったらよいのか？　この問題は知的障害に関わる人たちにとって大きな課題として提起されている。そして現場は試行錯誤の連続である。彼らの行動をどのように捉え、どのように対処すべきであるか。そしてその行動の意味とは?　これは実際に彼らを目の前にしたときに常に突きつけられる問題でもある。

この問題にいかに対応してきたか。てらん広場での10年の取り組みを踏まえ、その考え方とケース報告をしながら彼らに対するケアの質を問うて行きたい。

第3分科会　「知的障害を持つ人とアディクション」

報告者　小池英一・飯守汀子・岩崎　稔（同愛会　地域生活支援センター）
司会　　蒲生　としえ（同愛会　てらん広場　相談室）
コメンテーター　村田　由夫（寿福祉センター所長）
　　橋本　黎子（心とからだの相談室もも）

アディクション（嗜癖）とは「個人の健康な生活を脅かすようになった不適切な習慣」と定義される一連の行動をいう。その代表的なものとしてはアルコール依存、過食、ワークホリックなどが知られているが、最近では女性男性を問わず性依存もこのカテゴリーに含まれている。知的障害福祉においてはアディクション関連問題と取り組んだ事例が報告されることが少なかったが、同愛会ではこれまで2名のアルコール依存症者の回復をサポートした経験をもつ。また性依存と理解される事例への取り組みも行っている。

この分科会では、知的障害者支援におけるアディクション問題を支援と援助関係の側面から考えてみたい。報告者はいずれも地域生活支援にあたっている援助職ばかりである。知的障害分野のみならず、アディクション関連問題に関わる方々、関心のある方々の参加を歓迎します。

ダイア磯子10周年　特別企画　（第4分科会）
「触法行為を犯した知的障害者の支援と権利擁護について」
～事例報告とシンポジウム～

報告者　　長谷　茂幸　（同愛会　ダイア磯子）
　　ほか　スタッフ多数
シンポジスト　小川　佳子（弁護士）
　　菊地　哲也（弁護士）
　　堀江　まゆみ（白梅女子短期大学教授）
　　三好　洋子（自立援助ホーム「憩いの家」）
　　家庭裁判所調査官　（予定)

知的障害を持つ人が犯罪に関わった場合、つまり犯罪被害者や被疑者となった場合に、司法のプロセスにおいてコミュニケーションの課題やメンタル面における課題から、いかに彼らの権利を守るかということが司法改革の中であげらている大切な課題である。さらに、本人の意思を軸として、自立更生の道を探ることについて関係機関の役割を明確にすることも重要な課題である。

この領域において、我々はわずかながらの実践を通じ、失敗を積み上げてきた。その事例報告と関わっていただいた関係者の方々と共に、考える機会を持ちたい。